2014年10月22日作成　　山崎農業研究所

第149回定例(現地)研究会

山崎農業研究所

日　時：2014年10月25日（土）
場　所：体験館　TRY　TRY　TRY　　栃木県那須塩原市戸田74-2
参加者名簿（省略）

スケジュール（概ね下記時間を考えています）

Ⅰ.昼食　12：00～13：00
Ⅱ.施設見学　13：00～14：00
Ⅲ.意見交換会　14：00～16：00
司会：渡邊　博　（事務局長）
1.挨拶　小泉浩郎（所長）14：00～14：05
2.話題提供
阿久津加居　氏　14：05～14：50
人見みゐ子　氏　14：50～15：35
4.質疑応答　15：35～16：00
Ⅳ.解散

体験館 TRY TRY TRY

栃木県那須塩原市戸田 74-2

℡　0287-68-0450

携帯電話　090-8948-5360（人見みゐ子）

アクセス：新幹線　那須塩原駅　タクシー（約 20 分）

行	帰
東　京　10：12	那須塩原　17：02
大　宮　10：46	宇 都 宮　17：20
宇 都 宮　11：05	大　宮　17：50
那須塩原　11：21	東　京　18：16

プログラム

12：00～13：00　体験館で食事

13：00～14：00　施設見学

14：00～16：00　意見交換会（人見みゐ子さん、阿久津加居さん）

注）地図は Google からの転載です。

参考資料 1 体験館 TRY TRY TRY

出典：http://www.nou-taiken.net/jirei/jirei03.htm

「牧場を学びの場として提供―いのちの感動を子ども達に―」

（1）活動のはじまり

私の住む黒磯市戸田は、那須連峰の麓の酪農地帯です。私の家は、兼業農家で私は経営主として酪農を 25 年間続けてきました。次女が後継者として就農することとなりましたが、「自分も娘も楽しみながら農業を行い、子どもたちにも農業の魅力や感動を伝えることができないか 」との思いから、海外農業事情視察研修に参加し、スイス・ドイツのグリーンツーリズムを体験してきました。

ヨーロッパでは特に農家の女性がいきいきしていたのが印象的で、農業者としての誇りをもち、農業の魅力や感動を伝えたいという思いは更に広がり、夢いっぱいの構想を抱いて帰国しました。その後農村漁村女性生活活動支援協会主催のグリーンツーリズム専門家養成講座に参加しながら、準備に取りかかりました。

娘は幼稚園・保母の資格を持っており、その技能を活かしました。牧場では、子育てや生活の知恵と、農業を取り巻く厳しさ、食べ物を生産する工夫等を伝え、また農作物や動物に触れあいながら体験することができます。そうした体験的な活動をとおして、人間の素直な心や命の尊さを学び、考え判断する力を育むことができます。これは、総合的な学習の場として牧場を提供することになったと云えるでしょう。

（2）手作りで施設整備

少しずつ蓄えていた資金（約 500 万円）で、トイレ、シャワー室、食品加工室、コテージを設置しました。整地や花壇づくり、牛舎の壁画、看板などできることはすべて私と娘が中心になりながらも、家族みんなで手作りしました。体験館の名称は、娘達がつけてくれました。「お母さんは、今までもいろいろなことにトライしてきた。そしてまたトライ。トライ 3 つもつけてあげるよ。」と、いうのです。オープンは、平成 11 年 4 月 18 日でした。思いがけずその前日、新聞記者が看板を見て来訪し、当日の新聞に「酪農体験館本日オープン」と、大きな見出しで掲載してくれました。次の日から予約が入り忙しくなりました。

（3）私の目指す教育ファームとは

来館者は、原則として一日一組しか受け入れません。それは、子どもたちと会話をする中で私たちの思いを伝えたいからです。体験を通じて、農業に興味をもってもらえたらいいなと思っています。

●―うんちの話から始まり、始まり―

体験学習に来た子どもたちや消費者にまずやってもらうことは、牧場のにおい探しです。 バスから降りるやいなや「くさい」と鼻をつまむ人、ハンカチを出して当てる人・・・。

「えーっ！うっそー！」と驚きの声があがります。そして、うんちがくさいと思い込んでいたのが、実は餌のにおいだと気付くのです。「牛は、この餌を食べて命があり、私たちに牛乳を恵んでくれているんだよ。」「うんちだって堆肥となり、野菜を作ったり、お米を作ったりと畑で役に立っているのです。」話しているうちに、ハンカチや鼻に手を当てる人はいなくなります。

● 牧場クイズ

クイズにすれば、農業や食物に興味をもってくれるきっかけになります。そして、「わからないではなく考えよう。」「できないではなくやってみよう。」と呼びかけています。

（例）

・牛のうんちは、1 日に何キロくらい出るかな？

・ホルスタインという牛は、何で自分を証明するかわかりますか？

・（かぶと大根を一緒に蒔いておき）かぶはどれかな？

牧場クイズの景品も準備しています。

●酪農エリア

〔搾乳体験〕

搾乳体験の前に、まずは牛についてのお勉強。「母牛は子牛を育てるやめに牛乳をだします。人間はその大切な牛乳をいただいているわけです。」などなど。

〔牛の体についての勉強〕

聴診器を使って牛の心音や消化器の音を聞いてみます。初めての体験に行列ができます。「牛は 4 つの胃袋をもっていて、急いでパクパクと餌を食べ、ゴロンとして噛み返します。」「みんなも食事をしてすぐ寝ると牛になるゾーと、言われたことありませんか？」

〔授乳体験〕

養護学校の子どもたちを受け入れたとき、重度のハンディを持つ子どもたちは私の言葉をなかなか理解できませんでした。しかし、子牛への授乳体験の時、言葉にできない喜びを体いっぱいに表現している姿に涙がとまりませんでした。

●食品加工エリア

〔バター作り体験〕

フイルムケースを利用して一人一食分のバターを各自作ります。「思いっきり振り続けてね。おいしいバターができます。」できあがったらパンにつけて試食をします。「うわー、バターができた。」「おいしい。」自分で作った喜びと本物の味に感動します。

〔ソーセージ作り体験〕

ソーセージは、羊の腸、牛の肉、豚の肉を使います。したがって、三種類の動物の命をいただくことになります。牛が赤ちゃんを生み、もしオスだったら、10 日もすればこの牧場から売られて行って肉となるため命を亡くすのです。」「食事のとき、“いただきます”と言うでしょう。そのとき、お母さんお父さんに感謝するのはもちろんのことですが、動物にも命をありがとうと感謝してくださいね。」話しをしながらソー

セージ作りをさせています。「今まで考えたこともなかったよ。」「そうだなあ、牛さんだってもっともっと生きていたかったかもなあ。」と、感謝の心が生まれます。その他いろいろな質問が出てきて、学校ではあまり話しをしないという子どもたちも活動的になってきます。

〔お菓子作り体験〕

カステラ作りをする時には、卵を鶏小屋からとって来るところから始めます。かぼちゃかりんとう作りは、かぼちゃの収穫から体験します。じゃがいも堀り体験の後は、鉄板にスライスしたじゃがいもと野菜・手作りチーズをのせて焼いて食べます。など、四季折々に採れる野菜でレシピと体験メニューを組み合わせ、できるだけ旬の味と新鮮さを伝えることにしています。

●農業エリア

〔野菜の種蒔き・草取り・収穫体験〕

大勢のときは、義父も応援してくれます。「とうもろこしの種は、カラスに食べられないように、種は指で押して土の中に蒔くんだよ」と、コツを教えます。「そういう心配もしなきゃだめなんだね」と、子どもたちは新しい発見をします。

収穫期に再度訪れ、自分たちで収穫することもできます。そして、皮をむいで焼きとうもろこしでいただきます。採りたての焼きとうもろこしはとにかくおいしい。

種蒔きをしても収穫に来られないときは、宅配をしてあげることもあります。

●キャンプ場エリア

特別な接待は行わず、酪農家の暮らしの中で、都市で暮らす人たちが親戚の家を訪れたように、一緒に働いたり、動物とふれあったり、収穫をしたりして楽しんで帰っていただいています。

●みんなで食事

みんなで汗を流した後は、自分で作ったソーセージやバター、牛乳すいとんで昼食です。全員が大きな声で「いただきます」と手を合わせます。感謝・感動・感激・・・。

(4)今後の抱負

体験カリキュラムは、来館者の年齢、人数、時間等を踏まえながら、なるべく要望に応えられるように、打ち合わせをして組んでいます。婦人研修や社員研修として受け入れた時には、酪農の他に男女共同参画や後継者育成家族経営協定の講話もしながら、普及活動をしています。

平成 13 年に酪農教育ファームとして認証され、更に自信と希望が湧いてきました。来館した時とは別人のようになって帰っていく子どもたちや都市住民を見送りながら、総合的な学習の場として牧場を提供することにして本当に良かったと思います。そして、これからも続けて行こうと思っています。

（地域に根ざした食生活推進コンクール 2001　農林水産省総合食料局長賞　農林漁業分野より）

参考資料 2 体験館 TRY TRY TRY

http://www.dairy.co.jp/bkdayori/tochigi/trytrytry.html

より下記資料を転載しました。

栃木県 体験館 “TRY”TRY“TRY”

伝えたい 命の大切さと感謝の心

今日は牧場体験の日。60 人ほどの小学生たちが集まってきた。

初めての乳搾りに興奮したり、バターづくりに悪戦苦闘したり。

それでも、子どもたちはいきいきと楽しそう。

学校では学べないことが、牧場にはたくさんあるから。

ソーセージにも“3つの命”がある

「みんなが大好きなソーセージには、3 つの動物が使われています。さて、どんな動物かな？」
突然のナゾナゾに「え、なになに？」と興味津々の子どもたち。 「答えは牛と豚、そして羊。牛と豚のお肉を羊の腸に詰めてソーセージは作られています。だから、3 つの命をいただいているんだよ」
人見みゐ子さん（63 歳）が運営する牧場で開かれている体験学習の始まりです。栃木県・那須塩原市にあるこの牧場は、名前を「体験館“TRY”TRY“TRY”」といい、さまざまな牧場体験を通じてたくさんの大切なことを子どもたちに伝えてきました。
この日、牧場にやってきたのは地元の黒磯小学校 3 年生の児童たち。毎年、当小学校の 3 年生はみゐ子さんの牧場でソーセージづくりや乳搾り、バターづくりなどを体験します。
「牧場体験を通して伝えたいのは命の大切さと感謝の心です。ですから、搾乳を終えた牛は“と場”に運ばれて肉になることもちゃんと伝える。子牛を育てるために母牛が与えている乳を私たちがいただいているように、たくさんの命のつながりのなかで、人間も生かされています。ご飯を食べるとき、自然と『いただきます』と手を合わせるような子になってほしいと思いますね」
ソーセージづくりの次は乳搾り体験です。「フワフワしてあったかい！」「ギュっと搾らなくても出てきたよ」などなど、初めての乳搾りに子どもたちは興奮気味の様子。そんな子どもたちを前にみゐ子さんが語り始めたのは、なんと、牛の「うんこ」の話。

「牛のうんこ」のお話　吹き出しをクリック

2014年10月22日作成　　山崎農業研究所

女性がいきいきと働く酪農をめざして

みゐ子さんは那須塩原市の人見家に嫁ぎ、24 歳のときに義父から酪農を任されました。夫の幸雄さん（65 歳）は当時、電機関係の会社を経営していたため、牧場主は妻であるみゐ子さんです。牛の頭数を増やすなど、徐々に規模を拡大しましたが、当時は牛乳の過剰生産のため、出荷調整が行われました。
仲間が酪農をやめていくと同時に、牧場の周辺は別荘開発が進行。別荘を利用する住民から「牧場がくさい」とクレームも聞かれるようになります。
「糞尿がくさいって誤解されてね。だから逆に牧場をオープンにして周囲の人たちの理解を得るようにしました。牛舎に絵を描いたり、花壇をつくるなど環境を整備していったら、『この牧場は見学や体験もできるんですか』って聞かれるようになったんですよ。そのころから少しずつ見学者を受け入れるようになりました。牛乳を使ったお料理も教えたりしてね」
さらに転機となったのは、1996 年に海外研修でスイスとドイツの酪農家を訪ねたこと。農家に泊まったり、体験などを取り入れたグリーンツーリズム（農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動）について学んできました。
「ヨーロッパでは、自家製の牛乳でチーズを作って販売したりと、とくに女性がいきいきしていたのが印象的でした。私がめざす酪農経営がそこにあったんです」
グリーンツーリズムへの夢を育み、99 年に体験館をオープン。2001 年には「酪農教育ファーム」にも認証されました。

酪農教育ファームについて、詳しくはこちら

食べることは、生きること

みゐ子さんは、体験学習の最後に那須の民話を栃木弁で語り、こう締めくくりました。

「今日ここで見て、体験して感じたこと、学んだことを友達や家族のみなさんにも伝えてくださいね」

みゐ子さんは、子どもたちに「食べること、生きること」の基本を身につけてほしいと願っています。その背景にあるのは、みゐ子さん自身の幼いころの記憶。

「父も母も、土を耕して生きてきました。豊かではなかったけど、畑で採ってきた野菜の料理はホントにおいしかった。お店に並んでいる野菜にも、作り手が必ずいます。作る人を思う想像力があれば、食べものも命も粗末にはできないでしょ」

そして、暮らしに“ゆとり”を持つことの大切さも、農業を営んでいた両親から学んだそうです。必要以上に稼ぐよりも、大切なのは心の充足感だと。みゐ子さんの牧場は現在、夫と、後継者として就農した次女夫妻の４人で運営していますが、今以上に規模を広げることは考えていません。

「この規模が私たちにはちょうどいい。これ以上増やすと、体験学習の受け入れがおろそかになります。子どもたちとの交流を大事にしたいですから」

那須塩原市は、本州一の牛乳の産地。しかし、東日本大震災以降、酪農をやめてしまった農家が何件かあったそうです。そんななか、「おいしい牛乳をありがとう」、「がんばって続けてね」という消費者の方々からの言葉が強い力になったといいます。「仲間とともに励まし合って、地域の農業を守るために全力を注いでいきたい」というみゐ子さん。学びの場でもあり、健康と元気の源でもある牧場を、持ち前の明るさとパワーで守り続けます。

体験学習「バターづくり」の様子　吹き出しをクリック

牧場名：体験館“TRY”TRY“TRY　牧場主：人見みゐ子
所在地　〒　栃木県那須塩原市戸田74-2
家族数：　7名　従業員数：　4名　酪農開始年：1957年
飼養頭数：経産牛23頭、育成牛25頭
牛舎：つなぎ

参考資料 3　家族農業・農家と国際家族農業年について

国際連合食糧農業機関のパンフレット（“家族農業を営む人々―人々を養い、地球にやさしく”）では家族農業・農家と国際農業年について下記のように説明がある。

家族農業は、国や世界の食料安全保障と密接に結びついています。開発途上国、先進国を問わず、家族農業は食料生産分野の大部分を担う農業形態です。家族農家は、農業投入材や農業支援といった生産資源へのアクセスが乏しいにもかかわらず、自らの土地を丹念に管理して高い生産性を維持しています（土地の規模と生産性は反比例の関係にあることが多くの研究で示されています）。

家族農業は、伝統的な食料生産物を絶やさないように保護すると同時に、バランスの取れた食事に寄与し、世界の農業生物多様性と自然資源の持続的利用を保全しています。

家族農家は、地域の生態系や土地の持つ能力に関する知見を見事に適応させてきた管理人であるといえます。彼らは地域に根づく知恵を生かしながら、複雑かつ革新的な土地管理技術を通じて、限界地であることも多い耕作地の生産性を維持してきました。土地に対する深い知識や、多様な景観を持続的に管理する能力によって家族農家は、多くの生態系サービスを改善することができます。

家族農業は、とりわけ社会保護やコミュニティの福利を目的とした特定の政策と結びついた時、地域経済を押し上げる機会をもたらします。

家族農家は農村セクターと強い経済的つながりを有しており、特に農業が今でも労働力の大半を占める開発途上国では、雇用に大きく貢献しています。さらに、家族農業によって増えた収入は、住居や教育、衣料品など、地域の農業外経済に費やされます。

家族農家は、大きいが極めて多様性に富んだグループです。その定義は世界各地で異なっており、文化的伝統や国の基準に則して柔軟であるべきです。このような多様性をもって、FAOは家族農業を次のように定義しています。

「農村開発の複数の領域に関連した、家族を基本とするすべての農業活動。家族によって管理運営され、男女を問わず労働力を家族に依存する、農林水産業、牧畜、養殖における生産活動である。」

国際家族農業年

国連は2014年を「国際家族農業年」と定めました。国連食糧農業機関（FAO）は、各国政府、国際開発機関、農業者団体、その他の関連国連機関、ならびに関連するNGOと連携し、下記の目的に沿って実施を促しています。

1. 持続的な家族農業につながる農業・環境・社会面の政策開発を支援する
2. （家族農業に関する）知識、コミュニケーションおよび一般市民の認識を高める
3. 家族農業のニーズ、可能性、制約に関するさらなる理解を得て、技術支援を保証する
4. 持続可能性との相乗効果を創出する

2014年10月22日作成　　山崎農業研究所

国際連合食糧農業機関

家族農業を営む人々
——人々を養い、地球にやさしく

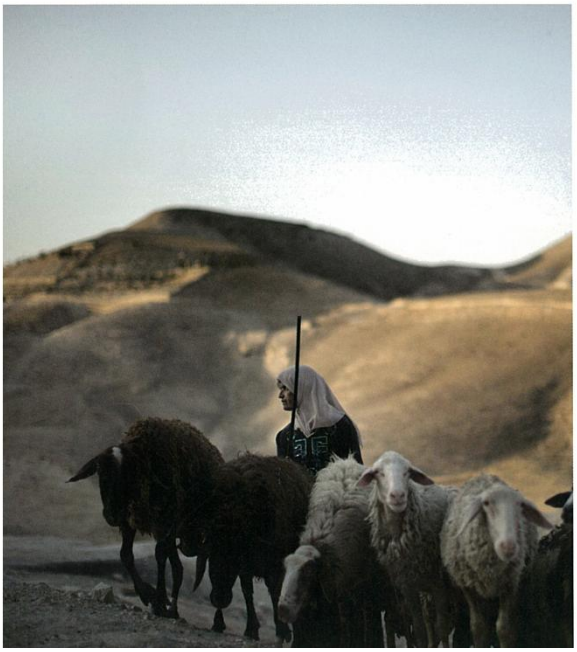
家族農業は、国や世界の食料安全保障と密接に結びついています。開発途上国、先進国を問わず、家族農業は食料生産分野の大部分を担う農業形態です。家族農家は、農業投入材や農業支援といった生産資源へのアクセスが乏しいにもかかわらず、自らの土地を丹念に管理して高い生産性を維持しています（土地の規模と生産性は反比例の関係にあることが多くの研究で示されています）。

家族農業は、伝統的な食料生産物を絶やさないように保護すると同時に、バランスの取れた食事に寄与し、世界の農業生物多様性と自然資源の持続的利用を保全しています。

家族農家は、地域の生態系や土地の持つ能力に関する知見を見事に適応させてきた管理人であるといえます。彼らは地域に根づく知恵を生かしながら、複雑かつ革新的な土地管理技術を通じて、限界地であることも多い耕作地の生産性を維持してきました。土地に対する深い知識や、多様な景観を持続的に管理する能力によって家族農家は、多くの生態系サービスを改善することができます。

家族農業は、とりわけ社会保護やコミュニティの福利を目的とした特定の政策と結びついた時、地域経済を押し上げる機会をもたらします。

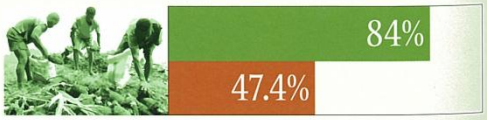
家族農家は農村セクターと強い経済的つながりを有しており、特に農業が今でも労働力の大半を占める開発途上国では、雇用に大きく貢献しています。さらに、家族農業によって増えた収入は、住居や教育、衣料品など、地域の農業外経済に費やされます。



家族農業における耕作地割合と農業生産性

ブラジル：家族農家は数種の主要作物の平均約40%を、25%に満たない土地で生産しています。

米国：家族農家は全生産物の84%（販売額2,300億ドル）を、全農地の78%で生産しています。



フィジー：家族農家はヤムイモ、コメ、キャッサバ（manioc）、トウモロコシおよびマメの84%を、わずか47.7%の土地で生産しています。

データは各国の「センサス」に基づくFAOの算出による

世界の家族農家
――主な事実と数字*

*91 ヵ国の「センサス」に基づく

- 世界には 5 億人以上の家族農家がいます
- 彼らは農家世帯の 98%以上を占めています
- 彼らは農業生産の少なくとも 56%を、56%の土地で生産しています

家族農家は、世帯の絶対数が示す以上に、世界の農地の多くを耕作しています。

地域別の平均を見ると、アジアが 85%、アフリカが 62%、北米・中米が 83%、ヨーロッパが 68%、南米が 18%となっています。

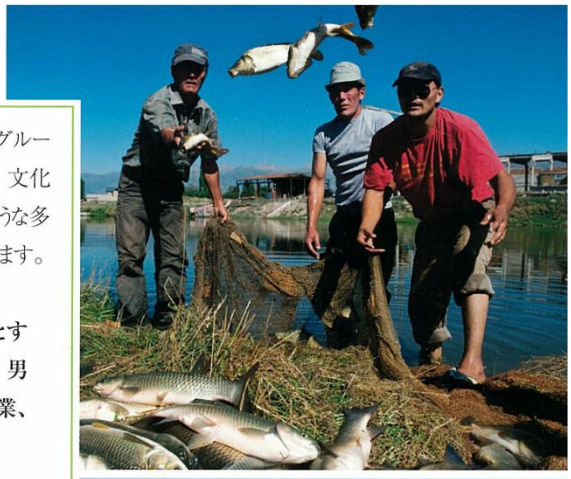
持続的な
コメ生産システムと
家族農家

10 億を超える人々がコメ生産で生計を立てており、35 億人以上が 1 日当たりカロリー摂取量の少なくとも 20%をコメに頼っています。家族農場は、とりわけアジアでは、コメ生産の主要な供給源となっています。コメ生産システムにおいて食料安全保障と繁栄は、長きにわたり、コメと魚両方の入手可能性や多様性と結びついてきました。伝統ある水田養魚農業、そしてこれらのシステムの現代農業への適応は、より高収量なコメ・魚の生産をもたらします。さらに、農薬利用が縮小していることで野生種の多様性も広がる可能性があります。水田はしたがって、豊かな生物多様性――鳥類からカニ、昆虫に至るまで――を育んでおり、最も成功した熱帯天水システムのひとつと考えられています。

いかに家族農業を
強化していくか？

飢餓の解消と食料安全保障の確保において家族農業が持つ可能性を十分に発現させるには、それを可能とする政策環境が不可欠です。例えば、家族農業の多面的な貢献を一層認識し、またそれらを評価し、国内の対話や政策に反映させることが挙げられます。基礎的な第一歩となるのは、各国が家族農業の国としての定義を明確に示し、家族農家の貢献を認識し体系的に組織している農業セクターに関するデータを収集することです。

国レベルでは、家族農業の効果的な発展において鍵となる要因が数多くあります。例えば、農業生態系の条件や土地の特性、市場アクセス、土地・自然資源へのアクセス、技術・普及サービスへのアクセス、金融アクセス、地理的・経済的・社会文化的条件、そしてとりわけ専門教育の利用可能性がこれに含まれます。具体的な変化と持続的な改善を実現するためには、家族農家支援における対象を絞った農業・環境・社会面の政策介入が必要です。



家族農家は、大きいが極めて多様性に富んだグループです。その定義は世界各地で異なっており、文化的伝統や国の基準に則して柔軟であるべきです。このような多様性をもって、FAOは家族農業を次のように定義しています。

「農村開発の複数の領域に関連した、家族を基本とするすべての農業活動。家族によって管理運営され、男女を問わず労働力を家族に依存する、農林水産業、牧畜、養殖における生産活動である。」

国際家族農業年

国連は2014年を「国際家族農業年」と定めました。国連食糧農業機関（FAO）は、各国政府、国際開発機関、農業者団体、その他の関連国連機関、ならびに関連するNGOと連携し、下記の目的に沿って実施を促しています。

1. 持続的な家族農業につながる農業・環境・社会面の政策開発を支援する
2. （家族農業に関する）知識、コミュニケーションおよび一般市民の認識を高める
3. 家族農業のニーズ、可能性、制約に関するさらなる理解を得て、技術支援を保証する
4. 持続可能性との相乗効果を創出する

国際連合食糧農業機関

2014
国際家族農業年

お問い合わせ
FAOローマ本部
Food and Agriculture Organization
of the United Nations
Viale delle Terme di Caracalla
00153, Rome Italy
www.fao.org

FAO日本事務所
TEL 045-222-1101
FAX 045-22-1103
E-mail FAO-Japan-Info@fao.org

www.fao.org/family-farming-2014
www.fao.org/agriculture/crops/core-themes/theme/spi/en/
Family-Farming-2014@fao.org

日本語版編集・発行：（公社）国際農林業協働協会（JAICAF）　http://www.jaicaf.or.jp

JAICAF / 14.07 / 3000